

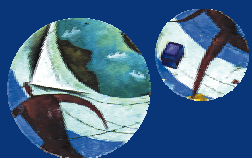


# SHINSEI BANK

2005年度中間期 会社説明会

決算・ビジネスハイライト

2005年12月7日

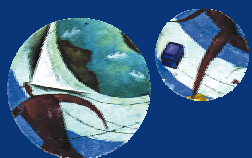


本資料には、当行および当行の子会社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定は不正確であることがあり得ます。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当行は、将来の事象などの発生にかかわらず、必ずしも今後の見通しに関する発表を修正するとは限りません。尚、特別な注記がない場合、財務データは連結ベースで表示しております。

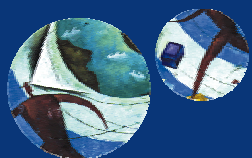
当行以外の金融機関とその子会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

本資料はいかなる有価証券の申込みもしくは購入の案内、あるいは勧誘を含むものではなく、本資料および本資料に含まれる内容のいずれも、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。



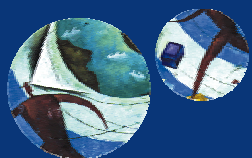
# 新生銀行：価値ある銀行サービスを目指して

- ❑ 収益源の多様化、質的向上を実現する3つの戦略ビジネス
- ❑ 資本の効率的運営
- ❑ 顧客ニーズにフォーカスした差別化戦略
- ❑ 一步先をいく商品・チャネル開発
- ❑ 透明性の高い経営、コーポレート・ガバナンス
- ❑ 株主価値向上へのコミットメント



## 2005年度中間期ハイライト

- ❑ 日本経済新聞社による顧客満足度調査2年連続第1位
- ❑ インターネットによる証券仲介サービスを開始
- ❑ コンシューマーアンドコマーシャルファイナンスの本格的な収益貢献  
～ アプラス: 11年ぶりの復配
- ❑ ドイツでのジョイント・ベンチャー(不良債権を扱う合併会社を設立)
- ❑ コーポレート・ガバナンスは、民間調査機関(日本コーポレート・ガバナンス研究所)  
調査で高い評価(銀行で第1位)
- ❑ 日経225指数の構成銘柄に採用



## 2005年度中間期 業績ハイライト

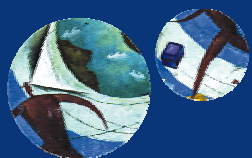
- ❑ 業務粗利益<sup>(1)</sup>は1,305億円、前年同期比79.2%増加
- ❑ 実質業務純益<sup>(1)</sup>は638億円、前年同期比85.9%増加
- ❑ 中間純利益は377億円、前年同期比30億円減少
  - ✓ (株)アプラスと昭和リース(株)の無形資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩、及び連結調整勘定に係る償却額(計128億円)
- ❑ キャッシュベース中間純利益は505億円、前年同期比24.0%増加
- ❑ 資金運用残高<sup>(2)</sup>は、6兆5,270億円、前年同期比34%増加
- ❑ 不良債権は461億円に減少、総与信の1.16%へ低下
- ❑ 資金調達の64%はリテール顧客

(1) 経営管理ベース

(2) 2005年度中間期の平均残高。主に貸出金、有価証券、リース資産、割賦売掛金等を含む

\* 数値は原則2004年度中間期との比較

主要な項目で順調な進捗



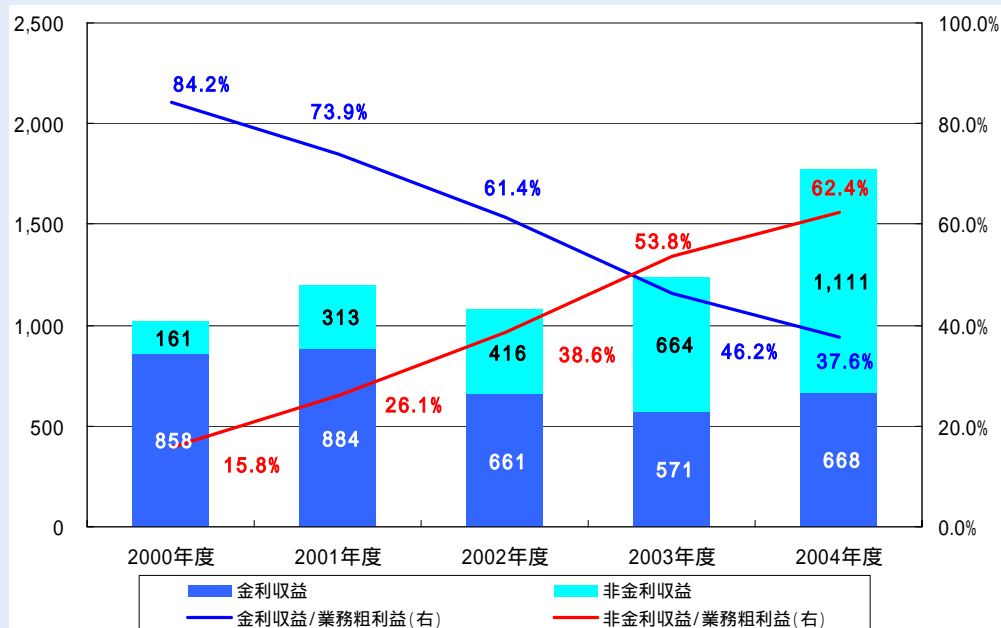
# 収益構造の多様化

- 収益構造の更なる多様化
- 非金利収益が増加する中、2004年度以降金利収益も増加に転換

## 収益構造（金利収益と非金利収益）：年度

（億円）

%

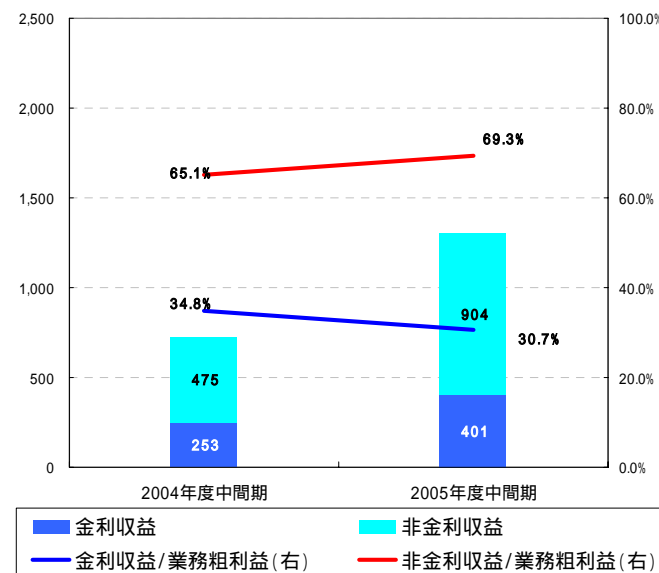


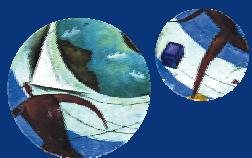
注) 2004年度以降は経営管理ベース

## 収益構造：中間期

（億円）

%

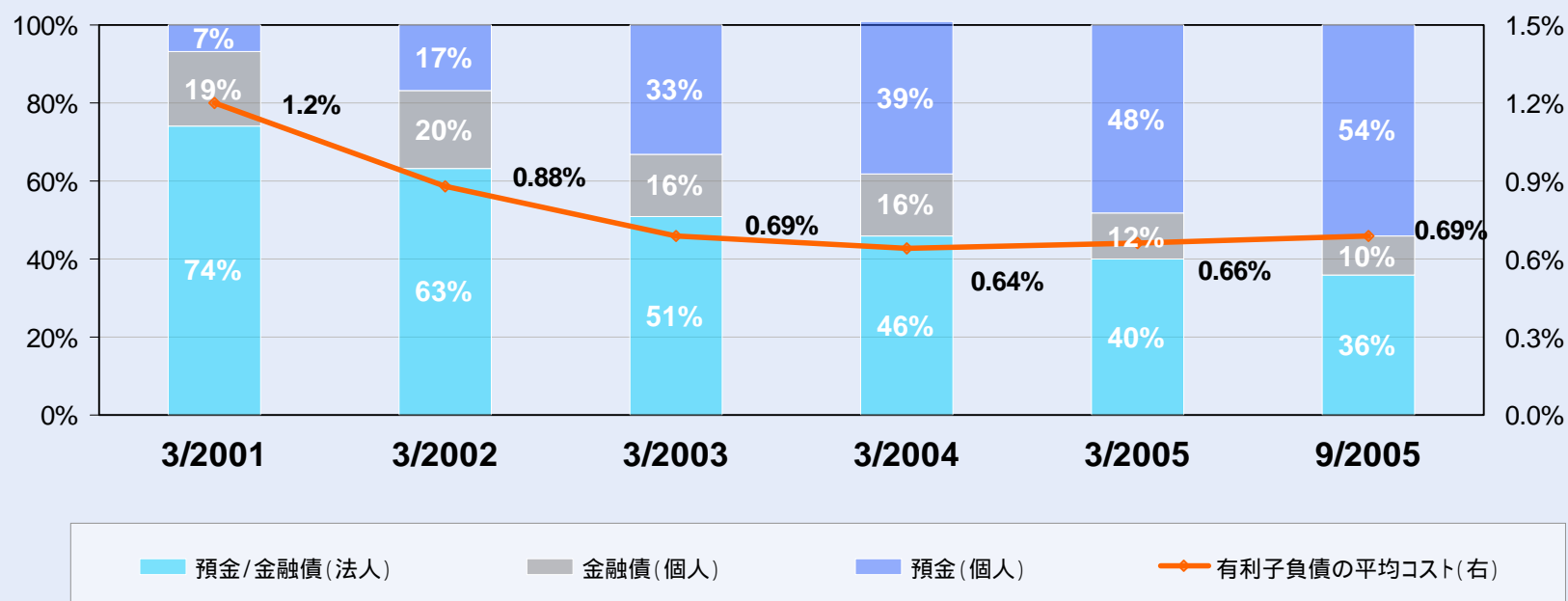


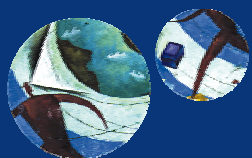


# 資金調達の多様化

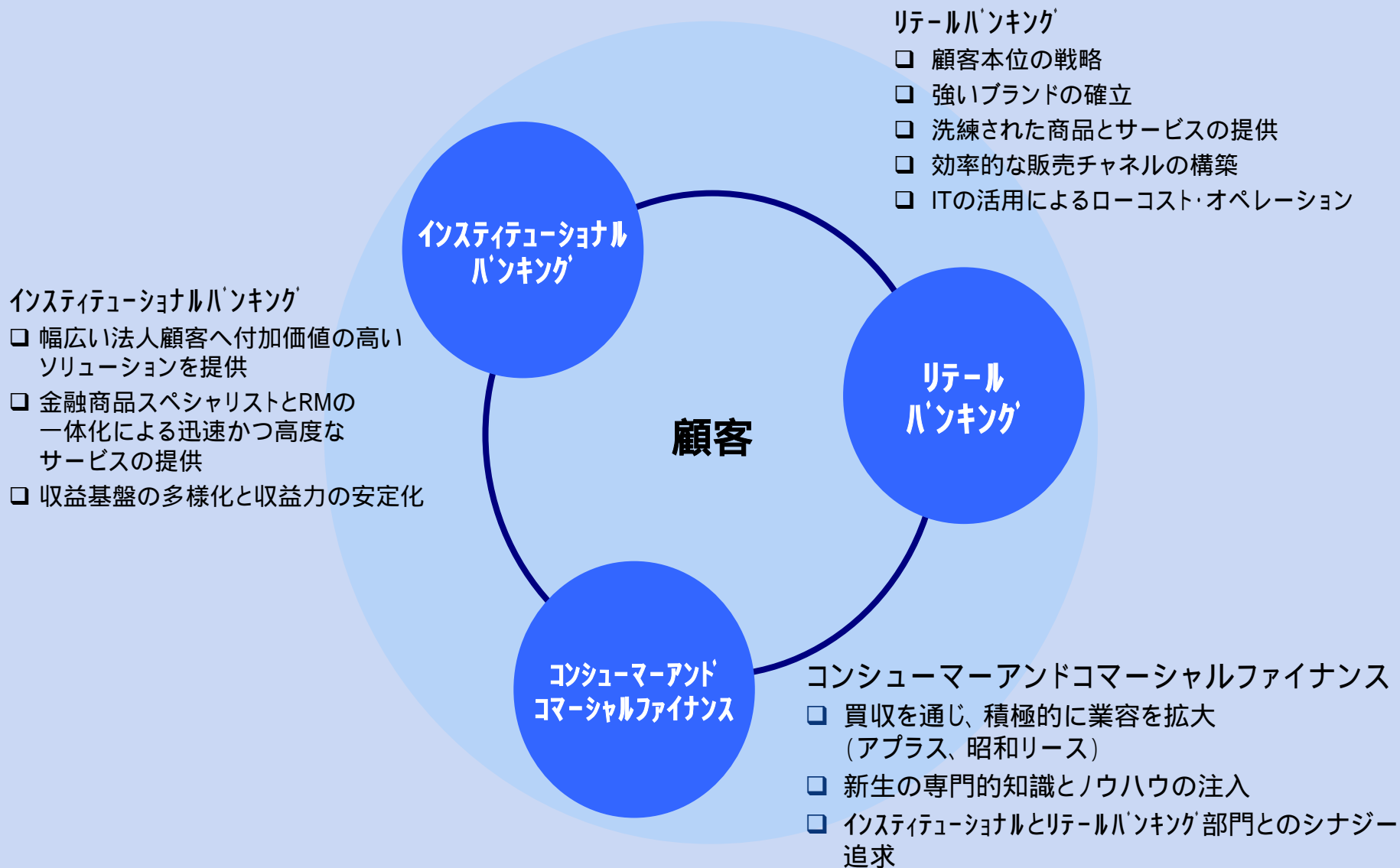
- ❑ 低コスト・多様化した資金調達
- ❑ リテールの預金増が、資金調達の安定化に大きく貢献

## 資金調達構成比の推移及び有利子負債コスト

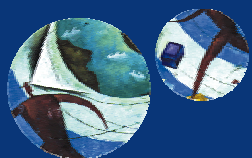




# ビジネス戦略 3つの柱





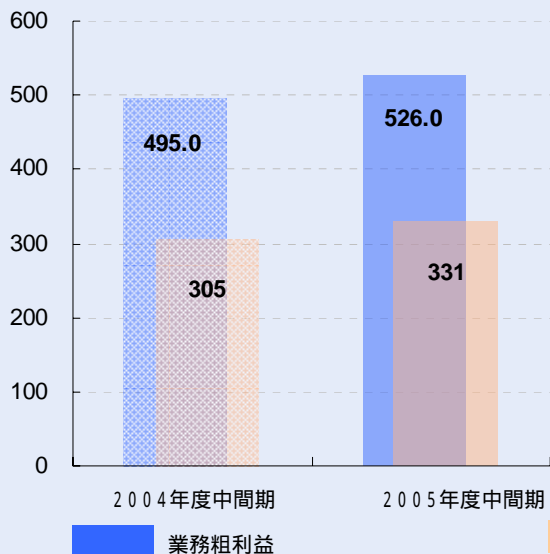


# 3つの戦略ビジネスが収益増に貢献

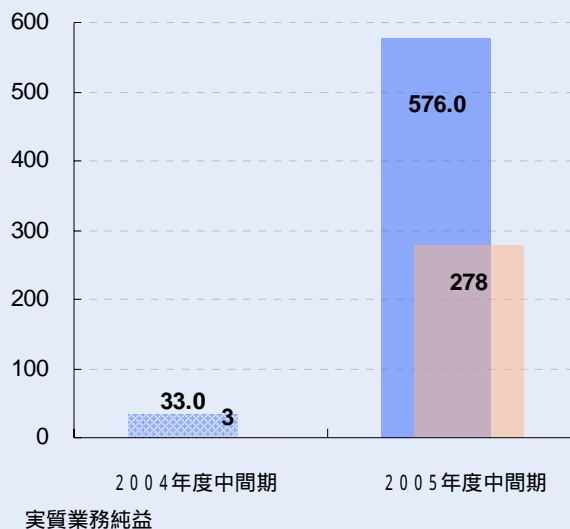
## 各ビジネスラインの収益構成比

- インスティテューショナル・バンキングは業務粗利益の40%、実質業務純益の50%強
- コンシューマーアンドコマーシャルファイナンスは業務粗利益の44%、実質業務純益の44%
- リテールバンキングは業務粗利益の17%、実質業務純益の6%

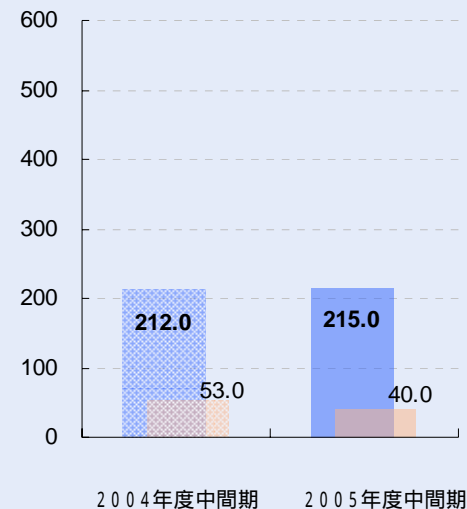
インスティテューショナル・バンキング  
億円



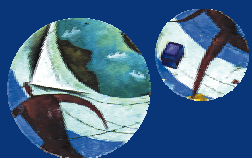
コンシューマーアンドコマーシャルファイナンス  
億円



リテールバンキング  
億円



注) 経営管理ベース



# 2005年度中間期：各ビジネスラインが収益貢献

## □ インスティテューショナル・バンキング：

- ✓ 業務粗利益は526億円、前年同期比6.2%増加
- ✓ 経費率は38.4%から37.1%に改善
- ✓ ノンリコースファイナンス残高は、8,518億円（うち、社債形態のものは2,153億円）、前年同期比14.4%増加
  - 2005年度中間期に80件の新規案件を実行
- ✓ 10件、証券化総額2,356億円の新規案件を実行

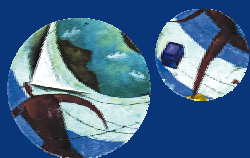
## □ コンシューマーアンドコマーシャルファイナンス (CCF)：

- ✓ CCFビジネスは業務粗利益で576億円、全体の44% を占め、大きく貢献
- ✓ アプラスと昭和リースが牽引役
- ✓ 2005年度中間期で貸出残高が423億円増加し、3,150億円へ伸長
- ✓ 経費率は2004年度60%から52%に改善

## □ リテールバンキング

- ✓ ‘Color your life’ キャンペーン効果で新規口座開設数は2005年度中間期に247,000口座
  - リテールの口座数は150万突破
- ✓ 業務粗利益は215億円、前年同期比1.3%増
- ✓ 収益の分散化：仕組み預金、投信、変額年金、住宅ローン
- ✓ 個人預金残高は2兆8,000億円となり、当行全体の資金調達に占める割合は64%

\* 数値は原則2004年度中間期との比較



# インスティテューショナル・バンキング: 分散化された収益源と強い成長力

## 2005年中間期のハイライト

### ✓ 不動産ノンリコースローン:

- 業務粗利益は前年同期比26.1%増加
- 残高は8,518億円に増加、前年度末比14.4%増加
- 80件の新規案件

### ✓ コーポレート・ローン

- 業務粗利益は前年同期比21.4%増加
- 貸出金残高は2兆6,000億円超、前年度末比6.8%増加

### ✓ 証券化:

- 10件の新規案件、証券化総額2,356億円を実行

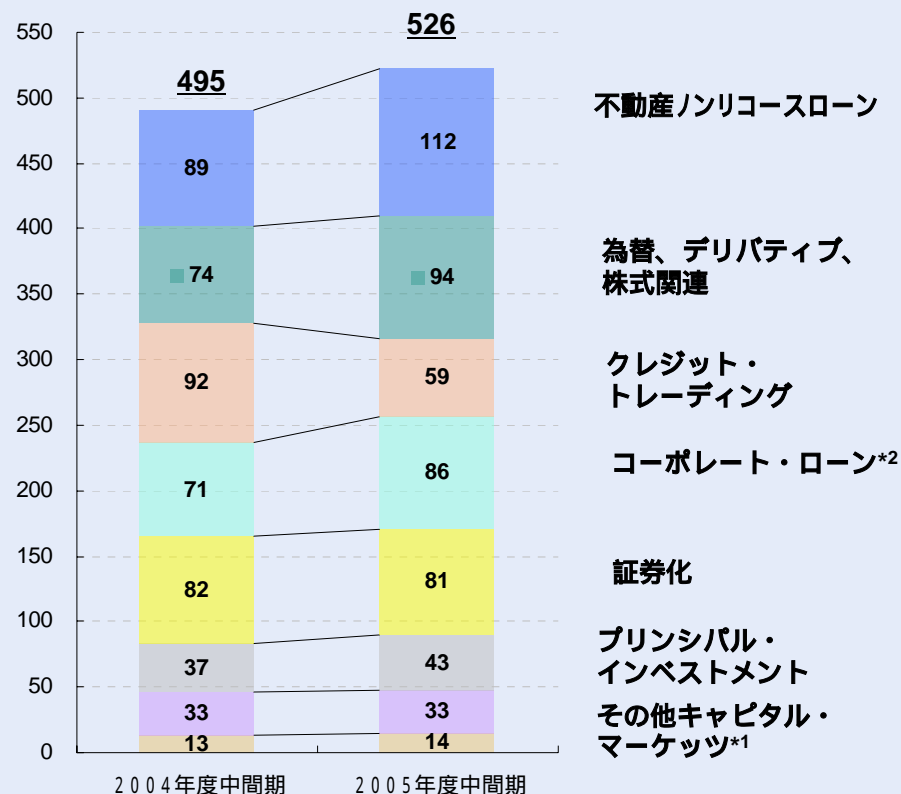
### ✓ 為替、デリバティブ、株式関連

- 業務粗利益は前年同期比28.3%増加

## 業務粗利益の内訳

2004年度中間期 vs 2005年度中間期

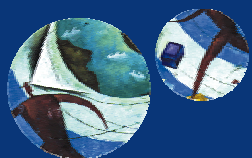
億円



注) 経営管理ベース

1: 新生証券と新生信託銀行が大きく貢献

2: スペシャルティ・ファイナンス(レバレッジドファイナンス)を含む



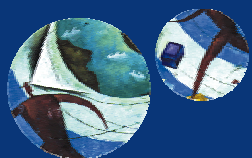
## 主要顧客への最適ソリューション提供による ビジネス拡大により、ハイブリッドモデルを構築

### □ 事業拡大

- ✓ キャピタルマーケットビジネスの拡充
- ✓ 新しい資産クラスの証券化
- ✓ レバレッジド・ファイナンス
- ✓ アドバイザリー・サービス
- ✓ ローン・シンジケーション
- ✓ 公共ファイナンス
- ✓ アセットマネジメント/ウェルスマネジメント

### □ 顧客への戦略

- ✓ CRMの導入
- ✓ クロスセルの強化



# コンシューマーアンドコマーシャルファイナンス： 確固たる収益への貢献

## アプラスと昭和リースの買収により、事業規模は大きく拡充

### □ アプラス

✓アプラスの業務粗利益404億円(構成比70.1%)、  
実質業務純益192億円(構成比69.1%)

✓アプラスは11年ぶりの復配(優先株)

### □ 昭和リース

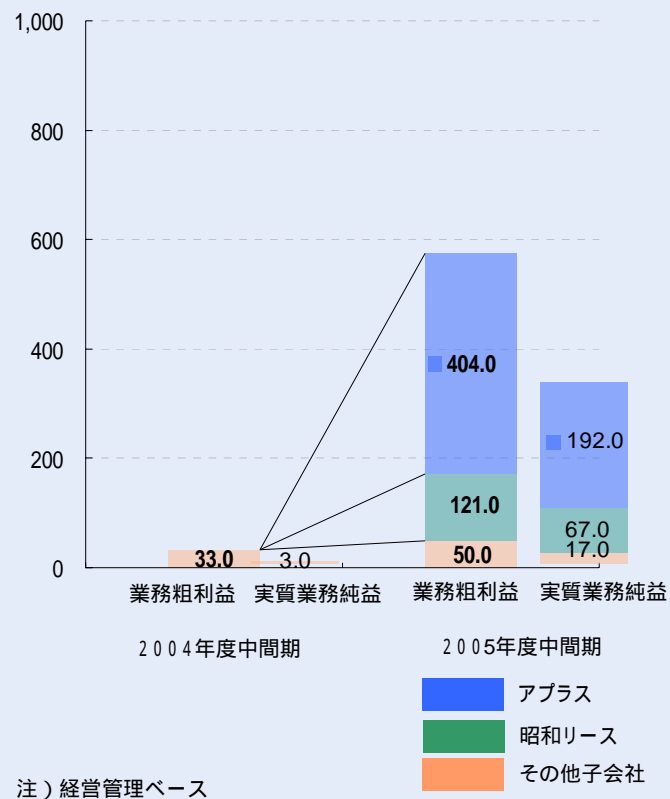
✓昭和リースの業務粗利益121億円(構成比  
21.0%)、実質業務純益67億円(24.1%)

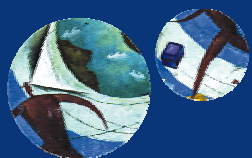
### □ その他

✓その他の子会社の業績は良好

注) 経営管理ベース

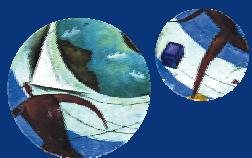
## 子会社からの収益貢献 億円





## グループ各社との経営一体化推進によるメリット

- マーケティング、販売チャネル、営業部隊を共有することによる取引機会の拡大
- 新生銀行グループ内でのクロスセルを通じた既存顧客との更なる取引深耕
  - ✓ コンシューマー・ソリューション
    - 信販事業をクロスセルで補完
  - ✓ 中小ビジネスソリューション
    - 昭和リースの商品提供の拡充
  - ✓ スペシャルティ・プロパティ・ソリューション
    - グループ内のシナジー効果の追求
- アプラスと昭和リース買収の成功体験が、将来のM&Aに応用



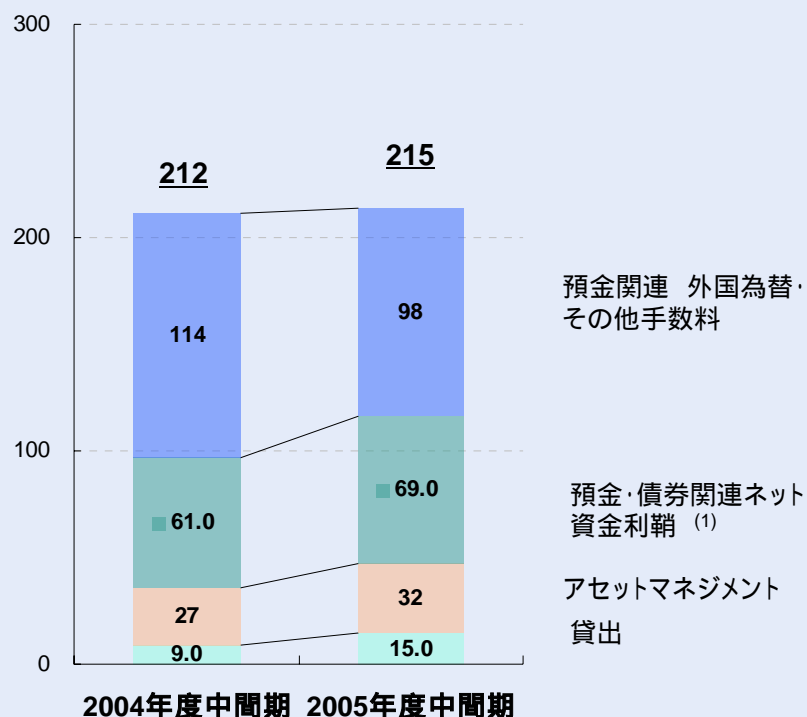
## 2005年中間期～順調に推移

- ❑ 仕組み預金からの収益を含む預金関連・外国為替・その他手数料は好調な  
昨年の反動により、前年同期比15億円  
減少し、98億円へ
- ❑ 預金・債券関連ネット資金利鞘は、リ  
テール預金が引き続き増加したため、  
前年同期比13.1%増
- ❑ 前年度末比貸出残高が36.4%増加して  
4,203億円に達し、貸出からの収益は拡大
- ❑ 投信、変額年金からの収益は前年同期  
比16.6%増の32億円
- ❑ 2005年度中間期中、247,000の新規口座  
が開設され、内約65%がリモートチャ  
ネル経由
- ❑ リテール口座は150万口座超

### 業務粗利益の内訳

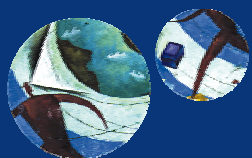
2004年度中間期vs2005年度中間期

億円



(1) 顧客の預金、債券に関連

注) 経営管理ベース



## □ 顧客フォーカス

- ✓ 顧客に対する知識と分析
- ✓ 顧客満足度/パフォーマンス計測とプロセスの改善
- ✓ 安全性の確立

## □ 顧客満足度・利便性

- ✓ 顧客満足度第1位
- ✓ 手数料無料

## □ 商品の品揃えとセールス・プロセス

- ✓ 自社開発商品群
- ✓ 資産運用商品と変額年金商品
- ✓ ソリューション提供型セールスと販売後の顧客フォロー

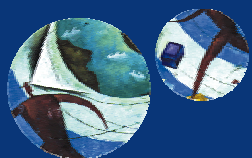
## □ テクノロジー

- ✓ 迅速かつ幅広い商品供給力
- ✓ 規模の追求
- ✓ 顧客の目線に立つサービス
- ✓ 多様な販売チャネル

## □ 人材

- ✓ 生産性向上
- ✓ 能力に応じた採用、教育プログラム





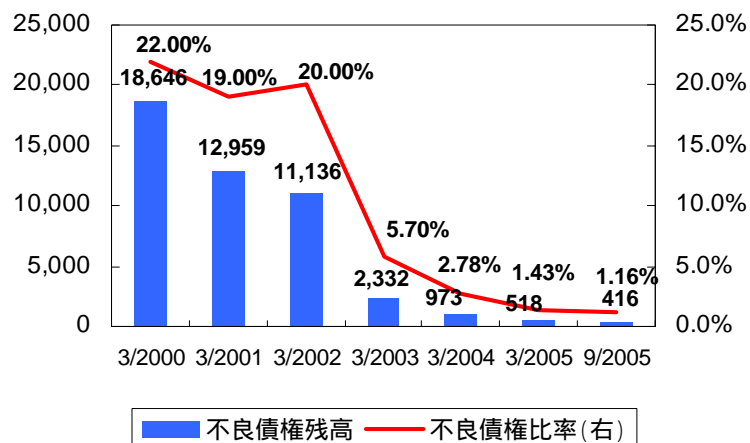
# 健全なバランスシート

- 過去5年間で1兆8,000億円の不良債権を削減( 97%)
- 業界トップ水準の高い保全率
- 十分な引当水準を維持

## 不良債権の推移<sup>\*1</sup>

(億円)

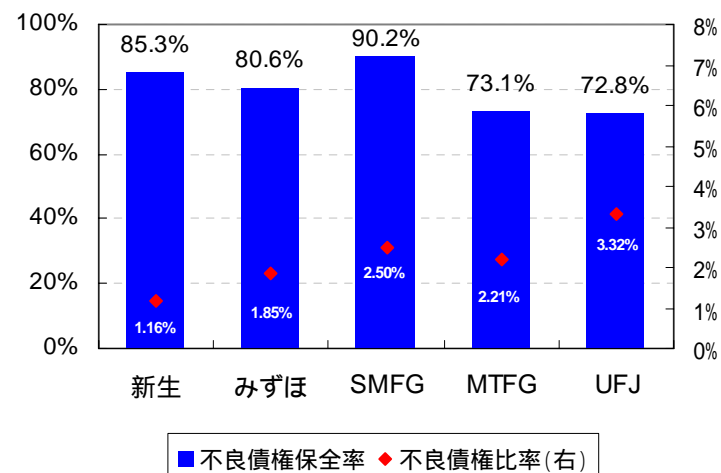
%



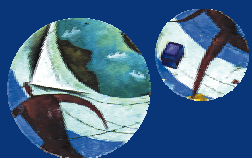
## 不良債権保全率 / 不良債権比率

2005年9月

%



\*1 単体ベース、金融再生法に基づく開示不良債権



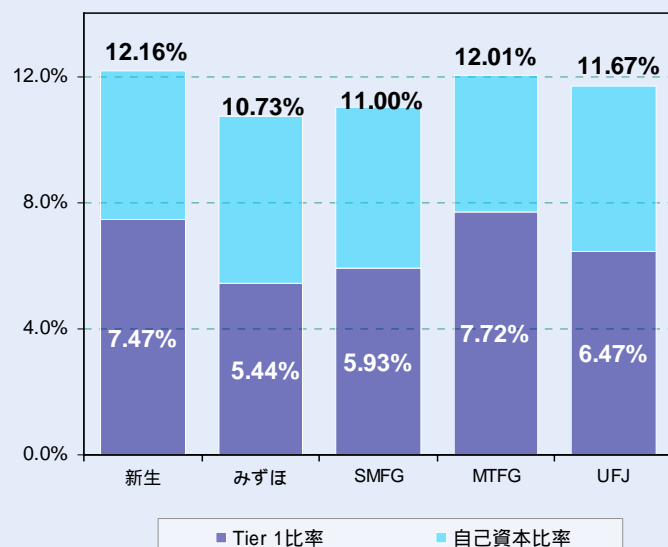
# 高い資本の質

- アプラス、昭和リース買収後のTier1比率: 7.47%
- 資本の質が、成長戦略をサポート
  - ✓ 繰延税金資産がTier 1に占める割合: 1.8%

## 自己資本比率

2005年9月

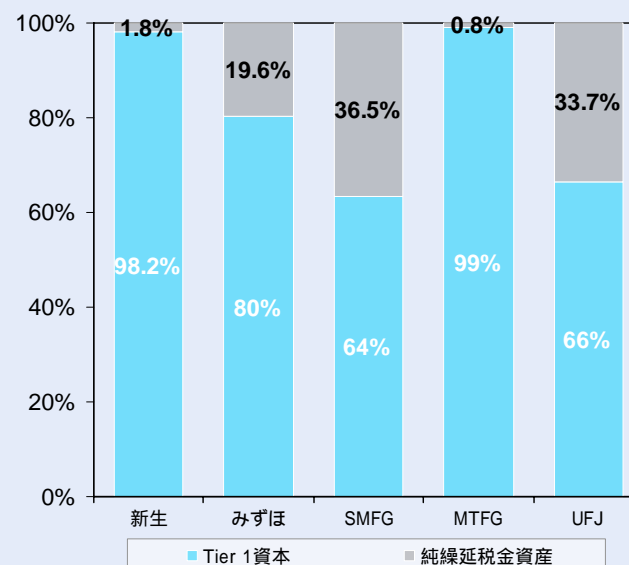
%

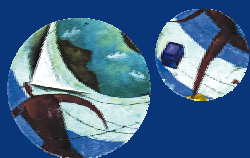


## Tier I 資本の質

2005年9月

%





# 株主構成の推移

## 【普通株式】

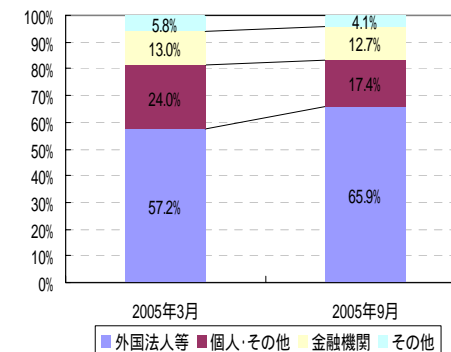
- 外国法人等による保有が増加 (57.2% → 65.9%)
- 個人・その他が減少 (24.0% → 17.4%)

## 【潜在株式調整後<sup>(1)</sup>】

	外国法人等 <sup>(2)</sup>			個人・その他			金融機関 <sup>(3)</sup>			その他			政府保有優先株 <sup>(4)</sup>		
	9/2004	3/2005	9/2005	9/2004	3/2005	9/2005	9/2004	3/2005	9/2005	9/2004	3/2005	9/2005	9/2004	3/2005	9/2005
普通株式 (1,358百万株)	74.0%	57.2%	65.9%	14.3%	24.0%	17.4%	9.0%	13.0%	12.7%	2.7%	5.8%	4.1%	-	-	-
潜在株式調整後 (2,027百万株)	49.6%	38.3%	44.1%	9.6%	16.1%	11.6%	6.0%	8.7%	8.5%	1.8%	3.9%	2.7%	33.0%	33.0%	33.0%

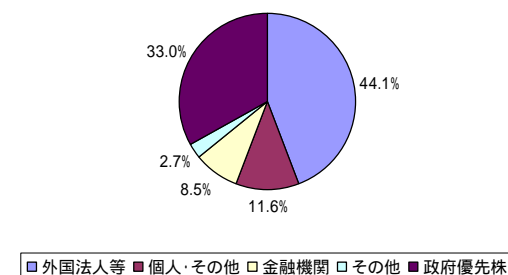
## 普通株式の投資家の内訳の推移

2005年3月対2005年9月

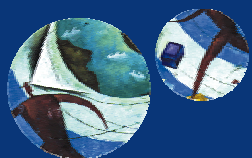


## 潜在株式調整後の投資家の内訳

2005年9月

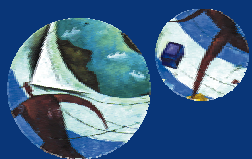


- 第3回乙種優先株式の当初転換価格は平成17年8月1日以降適用となる599円90銭
- 外国法人は、ニューLTCBパートナーズ、GGR ケイマンを含む
- その他は、証券会社とその他法人を含む
- 政府保有優先株は、預金保険機構と整理回収機構保有分



# 新生銀行：価値ある銀行サービスの実現

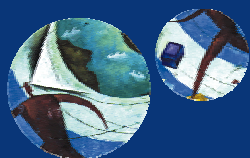
- ✓ 収益源の多様化、質的向上を実現する3つの戦略ビジネス
- ✓ 資本の効率的運営
- ✓ 顧客ニーズにフォーカスした差別化戦略
- ✓ 一歩先をいく商品・チャネル開発
- ✓ 透明性の高い経営、コーポレートガバナンス
- ✓ 株主価値向上へのコミットメント



Color your life



SHINSEI BANK



## < ご連絡・ご照会先 >

株式会社新生銀行

広報部インベスターリレーションズ担当

広報部直通電話: 03-5511-5013

FAX: 03-5511-5505

常務執行役広報部長 小島 一美

[Kazumi.Kojima@shinseibank.com](mailto:Kazumi.Kojima@shinseibank.com)

部長 乗富 和子

[Kazuko.Noritomi@shinseibank.com](mailto:Kazuko.Noritomi@shinseibank.com)

部長 アレクサンダー・デライレシア

[Alex.deLaiglesia@shinseibank.com](mailto:Alex.deLaiglesia@shinseibank.com)

部長代理 藤木 康寛

[Yasuhiro.Fujiki@shinseibank.com](mailto:Yasuhiro.Fujiki@shinseibank.com)

部長代理 茅岡 昭彦

[Akihiko.Kayaoka@shinseibank.com](mailto:Akihiko.Kayaoka@shinseibank.com)